

クロマグロの漁獲状況について（報告）

鳥取県農林水産部水産振興局漁業調整課

1 令和5管理年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）の漁獲状況について

- ・特定水産資源くろまぐろ（大型魚・小型魚）の漁獲可能量は、7月26日以降、新たな変更はない。
- ・11月30日時点、小型魚は10.16トン（消化率は63.5%）、大型魚は0.4トン（消化率5.6%）となっている。小型魚は、漁獲が多く順調に漁獲枠を消化しているが、大型魚の漁獲は少ない傾向がみられる。
- ・令和2年12月2日より1kg未満の小型魚は販売しないとの漁業者の自主規制による取り決めがあったが、漁業者間の協議により令和5年10月14日販売分から0.9kgに引き下げられた。その後、漁獲枠の消化が進んだことから、漁業者間で改めて協議し令和5年11月7日販売分より1.5kg未満の小型魚は販売しないこととなった。
- ・なお、各知事管理区分の消化率が75%を超えた場合には、資源管理協定により2kg未満の小型魚は放流することとなっている。

2 令和5管理年度の漁獲可能量の変更の記録及び漁獲量

（単位：トン）

種類	知事管理区分	当初配分	6/7	6/30	7/26	漁獲量 11/30現在	備考
小型魚	鳥取県くろまぐろ漁業	4.4	5.3	5.7	15.7	10.1	
	その他の漁業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
	県留保枠	0.4	0.6	0.2	0.2	-	
	合計	4.9	6.0	6.0	16.0	10.2	
大型魚	鳥取県定置網漁業	5.4	6.3	6.4	6.4	0.4	
	鳥取県その他の漁業	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
	県留保枠	0.6	0.7	0.6	0.6	-	
	合計	6.0	7.1	7.1	7.1	0.4	

【参考】

本県くろまぐろ漁業の漁獲状況（11/30 現在）

種類	知事管理区分	漁獲枠（トン）	漁獲量（トン）	消化率（%）
小型魚	鳥取県くろまぐろ漁業	15.7	10.14	63.4
	曳き縄	7.75	5.09	65.7
	定置網	7.95	5.05	63.5
	鳥取県その他漁業	0.1	0.02	20.0
	県留保枠	0.2	0.0	0.0
	合計	16.0	10.16	63.5
大型魚	鳥取県定置網漁業	6.4	0.4	8.1
	鳥取県その他の漁業	0.1	0.0	0.0
	県留保枠	0.6	0.0	0.0
	合計	7.1	0.4	5.6

3 令和 6 管理年度に向けた動き

- ・12月4日からWCPFC（中西部太平洋まぐろ委員会）年次総会が開催される。小型魚から大型魚への振替にあたっての特例措置（小型魚の漁獲上限を1.47倍して大型魚に振替）の上限の拡大（10%→30%）が審議される予定。勧告どおり採択されしだい、運用を開始することとしている。
- ・令和6年管理年度の当初漁獲枠は、令和5年管理年度と同じとなる模様。

4 クロマグロ大型魚の管理に向けた取り組み（第33回都道府県担当者会議で説明（R5.11.21））

- ・令和3年8月青森県大間のマグロが安値で大量に流通しているのではとの通報が水産庁にあり、青森県で事実確認を行ったところ、令和4年8月に55.7トンの未報告漁獲があったと報告された。
- ・関わった産地仲買は漁業法違反で有罪判決、漁業者は罰金の略式命令を受けるとともに青森県の大型魚の漁獲枠を令和4管理年度から差し引く措置を行った。青森県としても、TAC報告の有無について消費地市場等からの照会に応じる独自制度を導入した。
- ・これを受けて水産庁は、主要産地市場を視察し、常時監視できる設備、体制等の仕組みを検討することとしてモデル事業を令和5年度補正予算で実施。
 - ①陸揚げ状況を検査する国の検査体制の強化。陸揚げ港の常時監視の仕組みのあり方
 - 人員増員として、国で漁獲管理官（課長級）の設置を要求
 - 令和5年度補正予算で産地市場等において陸揚げの状況等を常時監視できる体制等をモデル的に検討、監視仕組みの導入のあり方を検討。モデル事業実施地域は別途相談したい。
 - ②クロマグロの個体別の管理や迅速な調査等が可能となるよう情報が確認できる仕組みのあり方
 - これまでの漁獲量のほかに個体数を報告事項に追加。
 - TAC報告を行っている情報（個体ごとの重量、陸揚げ日等）の記録及び保存の義務付け。
 - ③様々な流通形態に対応した流通段階における個体の適法採捕の情報が確認できる仕組みのあり方
 - 個体の譲渡し等をする際に採捕時の漁船名、個体ごとの重量、陸揚げ日等の情報の伝達および保存を義務付け
 - 取引伝票に必要な情報を記載またはタグやQRコード等を活用することにより対応可能とする。
- ・本県からは、境港は大きな産地市場であり、タグ付け等は市場関係者の手間がかかることとなる。現場の声を聞きながら進めるように求めた。また、本格運用がいつになるのかは、未定とのこと。